

平成28年度福岡市小図研 6月定例会記録

文責：田中夕子（和白小）

6月定例会の内容

日時：平成28年6月18日（土）

13:00～16:30

場所：福岡市立横手小学校図工室

内容：実技研修

「クレヨン・パス・水彩絵の具の
初期指導教えます」

講師 林田公与先生

池田裕美先生

監修 鈴木和枝先生

千葉裕康先生

授業研究部会②

参加者：53名



3 パスの持ち方



実技研修

「パスの初期指導について」

講師：野多目小学校 池田裕美先生

1 クレヨンとパスの違いについて



教師用指導書の中の、
材料・用具編の本が参
考になります。



クレヨン：ロウ分が多く、
油脂が少ない。(硬い)
線描に適しているが、混
色には不向き。

パス：ロウ分が少なく油脂が多い。(柔らかい)
面描、混色に適している。同じ強さでも太めの
線が描ける。

2 パスを順番通りに並べよう

(理由)「隣同士の色が仲良し」を意識させる。
色相環、混色の知識へとつながる。

鉛筆持ち・握り持ち・つまみ持ち。

持ち方によって、様々な線を描くことができる。
パスが折れないように、下の方を持つ。

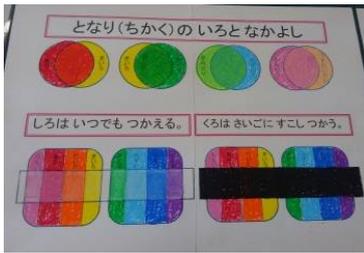
4 使うときのポイント

片づける時、汚れた時こまめにティッシュでふく。
折れたら、ラベルの紙を取って、ねかせぬりに使う。
少しずつ紙を破る。全部取れたら紙をまく。
→「素敵な下絵」が汚れてしまうことを防ぐ。
色にこだわる。道具を大切に使う。という姿勢へ
つながる。



5 実技

①混色



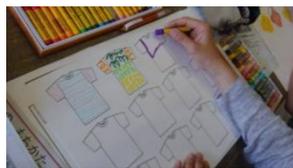
隣の色となかよし。
白：いつでも使える。
黒：最後に少し使う。

②混色しながら肌をぬろう。



- (1) 橙・桃色・黄土色・茶色・黄色など軽く塗る。
- (2) 上から薄橙などで色を重ねる。丸く、ふっくらと（肌の丸い感じを）線描きの色とぶつからないように。

③さまざまな技法で



○鉛筆もちで

すうすう・ぐるぐる・ぴんぴん・なみなみ

○握りもちで

ごしごし・てんてん

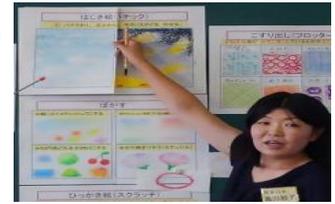
○つまみもちで

ねかせ・ぼかし

→学習を進めながら、子どもたちと一緒に「〇〇ぬり」を増やしていくのもよい。それぞれの塗り

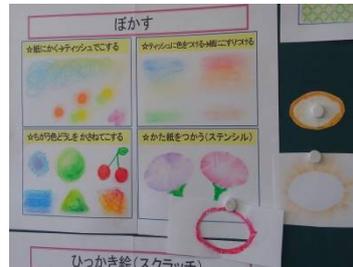
方がどんな感じがするか、どんなところに使えそうか、考える。

○はじき絵(パチック)パスで強めにしっかり描く。筆やスポンジで色を置く。



○ぼかす

紙に描く。→ティッシュでこする。ティッシュに色を付ける。→紙にこすり付ける。



違う色同士を重ね

てこする。型紙を使う。(中から外へ。外から中)

○こすり出し(フロッタージュ)



ねかせぬり。でこぼこのある硬めの物の上に上質紙を当てて軽くこする。

○ひっかき絵(スクラッチ)



明るい色をぬる。→暗い色を上からぬる。→ひっかく。(釘や割り箸、くし、フォーク)

授業研究部会

1年「のってみたいな」

3年「いろいろ写して」

6年「想像の翼を広げて」

にそれぞれについて、学年部ごとに以下のことについて話し合いました。

○これまでの経験

○題材名

○目指す子どもの姿

○目標

低学年部 (当仁小1年: 後藤由加里先生)

中学年部 (飯倉中央小3年: 吉村亜希子先生)

高学年部 (和白小5年: 山口亮大先生)

平成28年度福岡市小図研6月定例会記録2

文責：隈本 裕寿（有田小）

実技研修②

「水彩絵の具の初期指導」 絵の具の授業にお役立ち資料をつくりませんか

講師：百道浜小 林田公与先生



1 用具の準備について

○ 水の準備（筆洗）

水入れのことを筆洗（ひっせん）といい、中は仕切りがあり3～4つに分けられています。水の量は、半分くらいまで。多すぎると仕切りから水があふれ他の部屋の水と混ざりあって汚くなってしまいます。洗う・すすぐ・つける部屋をきちんと使い分けることが大切です。

○ パレットについて

絵具は小さな部屋に出します。パレットに色が示されているものもありますが、なければ絵の具の箱に示された順番などを参考にするとよいでしょう。出す量は小指の爪ぐらいの量にすること、また筆で絵の具を取るときは筆をきちんと洗って色が小部屋でまざらないようにしましょう。残った絵の具は洗い流さずそのまま。水で溶かせば次回も使えます。

○ 筆について

筆は大（中小3本ほどそろえるといいですね）ネオセーブルやセブロンなどのナイロン筆は腰があり水含みもよいので使いやすいかもしれません。

○ 筆ふき布（筆ぞうきん）について

筆の水分調整に使います。絵の具セットにはスポンジが入っているものが多いのですが、スポンジではなく布にしましょう。雑巾でいいのですが半分くらいのサイズでかまいません。



○ 机の整理整頓

資料のように活動がしやすいように画用紙や絵の具道具を机の上に整理して置きます。画用紙が四つ切り大の時は、筆洗や絵の具は足元に置きます。

2 指導の実際

○ 絵具の混ぜ方

パレットの広場に混ぜ合わせたい色を取ります。小部屋から色を取るときには筆をよく洗ってから取ります。混ぜるときは穂先を使って十円玉の大きさくらいに混ぜます。取った色は少しずつ混ぜ一度に全部を混ぜません。また、広場いっぱい混ぜ「絵の具のプール」をつくらないようにしましょう。

○ 筆に含ませる水の調節

筆洗の使い方注意し、とく（つける）水は最後までに混ぜないように。汚さない目印におはじきなど入れておくことも…。

筆洗のふちでしごき余分な筆の水分は落とします。筆ふき布でさらに水分を調節したり穂先

を整えたりします。余分な水分を取ることでつきたい色の吸い上げもよくなります。



○ 三原色で色づくり

赤青黄の三つの色の組み合わせで色は無数につくることができます。

「むらさき」は赤+青。混ぜる分量の違いで、いろいろな紫ができます。しかし、メーカーによってはうまく紫ができない絵の具もあるようです。

「みどり」は、青+黄でできます。これも混ぜ方で「きみどり」「あおみどり」「みどりあお」「ふかみどり」など様々な緑をつくることができます。

○ 重色にもチャレンジ

一度ぬった色が乾いたら（ポイント）、少し違う色を上から重ねてみましょう。これを重色（じゅうしょく）といいます。

3 指導のツボ

水も絵の具

「ちょっと濃く塗りすぎた」など失敗と感じられることも絵の具の彩色では水をつけ簡単に色をぬくことができます。濃淡をつけることも簡単に！ 水彩絵の具では「水も絵の具の一部」と考えられるかもしれません。



線の上は×

白は残す

子どもたちが彩色をすると、このあじさいの花のようなもの場合花全体をぬりつぶしていくことがあります。「線が見えなくなる濃さ」とよく言いますが、色を置く感じで線の上は色をつけないようにしていきましょう。花と花の間や中心をあけて（白い部分を残して）、色を付けることも一つ一つ花の際立させるためには有効です。

